

りーど通信 Vol.18



〒814-0153 福岡市城南区樋井川 4-1-11 2016年8月1日発行

ヘルパーステーションほっとほっと 092(866)1622 グループホームすてっぴ 092(834)3365

福岡市城南区知的障がい者相談支援センター 092(874)7907 短期入所者の家りーど 092(834)3368

地域生活支援の拠点

福岡市では、障がいのある方が地域で安心して暮らしていけるよう、24時間対応の相談、緊急時の対応、体験機会の場、地域の連携体制、市全体での専門性、5つの機能を持つ“地域生活支援拠点”を各区に整備することが検討されています。

一般市民も人生の中では、出産、子育て、就職、転居、失業、事故や入院、借金、介護、冠婚葬祭など思いがけない個人や家族だけでは解決できない様々な課題に遭遇します。障がいのある人にとって上記のことは、さらなるハンディキャップとなり、日常の支援が中断し生死に関わる事態にも発展します。当法人では、昨年度1400件のショートステイの支援、1800件の地域の障がいのある方からの相談を受付けましたが、これまで以下のような特に支援を要する事例に遭遇し教訓を得ました。

<事例>

- ・ 入所施設から地域移行したアパートでの一人暮らしの方の就労も含む生活支援
- ・ 母親の乳がん発症、手術による学校、放課後、ショートステイ等の緊急調整
- ・ 認知症で高齢の母親と重度重複障がい者の母子家庭の地域包括と連携した支援
- ・ 知的障がい者夫婦の生活支援と連れ合いの急死時の緊急支援
- ・ 触法障がい者の緊急的医療ケア、再犯時の対応や社会復帰に向けての生活支援
- ・ 虐待事案の緊急一時預かり など

<教訓>

- ① 安心コール機能は心身の障がいの程度に関係なく必要。
- ② 日中一時も含むショートステイの日常的な体制の確保。
- ③ 通常の相談支援員による巡回や電話対応の限界。
- ④ 東北や熊本を教訓に大規模災害時の対応の必要性。

平成21年に国が始め、その後市町村事業に移行した「障害者を地域で支える体制づくりモデル事業」通称安心コールセンター事業を参考に当法人も、りーどを開設しました。在宅で暮らしている障がい児者と家族にとって、暗闇にともる灯台の小さな明かり。その灯が見えているから在宅生活を続けて行く希望が持てる。24時間365日電話で相談できる場所がある。いざという時は助けてくれる。この安心コール機能が今後福岡市に普及することを切に願っています。

りーどセンター長 友廣道雄

グループホームすてっぴ

◎ 祝！開所3周年

6月2日に開所3周年のお祝い会を開きました。仲間、職員、法人の他事業所職員が参加し、写真で1年間の振り返りをした後は、和やかに会食をしました。

最後はみんなで「明日に向かってすてっぴ」の大合唱！
これからもみんなで楽しく元気に暮らしていきたいと思
います！



◎ ぐんぐん育て、夏野菜！



2階のベランダに菜園コーナーを作りました。仲間たち
で、ピーマン・トマト・キュウリ・オクラを育てることを決
めて、植え付けをしました。

大きくなったらみんなで食べるぞ～！

ボランティアさん、来て下さ～い！

8月にそうめん流し、それ以降もバーベキューなどの
イベントを予定しています！仲間たちがイベントを楽し
むためには、ボランティアさんの力が欠かせません！

ぜひ、すてっぴにボランティアに来てくださ～い！
お問合せ…Tel 834-3365 すてっぴ まで



りーどスタッフ紹介 番外編

今回はショートステイやグループホームでがんばってくれている学生アルバイト
スタッフを紹介します。



齋藤勝弘

昨年より大学に通いながら勤めています。日々、学ぶこと
がたくさんあり、成長させていただいています。利用者の方
一人ひとりと関係性を築き、快適に楽しくすごしていただ
けるように、これからも精進していきます！

小川茜

りーどで働き、約2ヶ月が経ちました。りーどはいつも温
かい雰囲気、たくさんの刺激や学ぶことがあります。まだ
まだ会ったことがない方や上手にお相手出来ないこと等ある
と思いますが、これからもよろしく願いいたします。



一緒に働いてくれる方(学生可)を大募集です！ Tel 873-7481 (法人本部)までご連絡下さい！